

消費者教育推進のための「社会への扉」 活用研究授業

徳島県立城南高等学校

平成30年11月16日(金)取材

【公民科(現代社会)研究授業】

5限目、1年生の現代社会において、消費者としての責任と権利について、「社会への扉」を活用した授業が行われました。本時はグループごとに調べた内容を発表することで、消費者問題解決のための有効な行動について、クラス全員で考えました。

前時のふりかえり

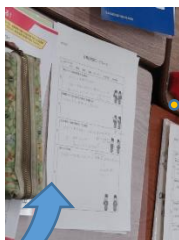
「社会への扉」と教科書を使い、「消費者としての責任と権利」について、ふりかえりを行いました。



教室に設置された電子黒板を活用

グループ討議

「安全」・「環境」・「貧困」・「資源・エネルギー」・「災害復興」・「食料問題」の各グループで事前に調べた内容について、討議を行い、グループとしての考えをまとめました。



ワークシートを使って討議を進めます。



机間巡視でアドバイス

発表

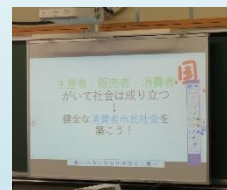
討議した内容をまとめて、グループごとに発表が行われました。



真剣に発表を聞いています



まとめ



消費者としての自覚と行動がより良い社会を形成する上で、重要であることについて、学びました。

【家庭科(家庭基礎) 研究授業】



6時限目は、1年生の家庭基礎において、急速に普及する電子マネーについて、そのメリットとデメリットについて、ディベート形式で意見を交換することで、理解を深める授業が行われました。また、テレビ会議システムを活用し、消費生活相談員のアドバイスが授業に取り入れられました。



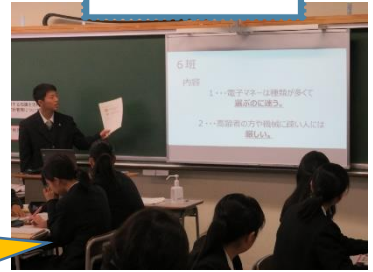
電子マネーに関するアンケート調査結果を提示し、課題を共有

「社会への扉」を活用し、様々な支払いについて復習

肯定派立論



否定派立論



「電子マネーは生活の中で利用すべきだ 是か非か」についてディベートが行われました。



質問に備えて、メモを取りながら発表を聞いています。

肯定派と否定派に分かれて、各グループが電子マネー利用の是非について、その根拠とともにプレゼンテーションを行いました。

作戦タイム



それぞれの立場からのプレゼンテーションを聞いて、論点の矛盾等、各グループへの質問をホワイトボードに整理します。

各グループへの質問を発表します。発表内容を書いたホワイトボードは黒板に掲示します。

●●● 最終弁論



各グループからの質問に対して、回答するとともに、それを踏まえて自分たちの主張を再度説明します。



消費生活相談員からテレビ会議により、アドバイスをいただきました。



キャッシュレス時代における家計管理においては、電子マネーのメリットとデメリットをしっかりと理解しておくことが大切。



【研究協議会】

研究授業終了後、各会場にて研究協議会が開催されました。



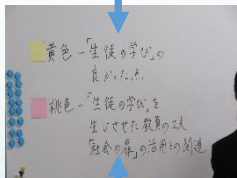
【公民科】



学校教育課河野指導主事からの指導・助言



文部科学省教科調査官からの指導・助言



授業を参観して、生徒の学びにおいて良かった点などを付箋に書き、模造紙に貼りながら、協議を行いました。その後、グループごとに発表を行い、意見を共有しました。

小学校、中学校そして高校と
校種間の連携が必要（縦の糸）

公民科や家庭科を中心に
教科間の連携が必要（横の糸）

教育効果



【家庭科】

